

25 歳 生まれて初めての海外旅行はソビエト連邦；当時のノートの記録から

新潟空港からハバロフスクへ アエロフロートで

ハバロフスク PM11 時 25 分。やっとソビエト連邦にやってきた。とても疲れた。身体がほのぼの温かい。部屋は冷え冷えとしている。8F、西にウラル川が流れている。街は枯葉で寂しく、仕事明けの人々で夕方はごった返していた。若い女の人は皆Краснаяである。川崎さんという添乗員、演劇関係でモスクワに 15 年滞在したという。20 代でこちらに渡り 1954 年から 15 年間、うち 2 年間は別の社会主義国に渡ったとのこと。モスクワではモスクワ放送の記者やアナウンサーをやったりしたこともあるという。1 年間演劇大学へ、10 年前に日本へ帰国。

夕食は水俣のナポレオンで Y さんが食べたあれとそっくり。ロシアの餃子というやつ。瓜二つ。面白い偶然だった。平然とパンをちぎり投げ込み、Y さんが食べたようにして食べたがそれでよかったのかな。

*夕飯のとき 8F から 1F のレストランへ降りようとしたとき鍵を忘れたことに気づいて部屋のオーバーのポケットに。ちょっと待たせてごめんなさい。

この度で決断しないといけないことは決めなければいけない。

明日は朝 9 時朝飯。さあ寝よう。11 時 35 分ハバロフスク時間。

サマルカンドはモスクワやハバロフスクにあったような高層の建物がない。人間に合った街並み。緑が多い。朝 7 時頃より、騒がしくなって街が動き出す。道路はひっきりなしに車両が移動する。薄青い廟の光がまぶしい。今朝は午前 3 時 15 分頃より外が明るく目を醒まされた。やはり南に緯度があって朝も早く明けるのだろうか、と考えながら時計を見ても全く針が進んでいなかった。昨日モスクワの空港で時計を合わせたつもりが・・実は既に声午前 7 時を回っていたのだった。慌てて飛び起き顔を洗った。そして今部屋の外に向かう椅子に腰掛けてこれを書いている。

モスクワでは川崎さんと一緒にの部屋だったが、サマルカンドでは一人部屋でのんびりしたが TV もラジオもない部屋で残念だった。

10 月 29 日

サマルカンドの夕方、4 時頃まで市内見物に出かけた。素敵な街並みに並べられた商品、スイカ、メロン、ブドウ、床屋さん、電気屋さん、パン屋さん、アイスクリーム屋さん、色々ある。街行く人々は色とりどりの着物を着け、頭に白いものを巻いた人やロバに乗った老人も見かけた。市街をちょっと抜けた所で、子どもの石遊びをじっと覗いていたら、小さな子どもが泣き出した。その姉だろうか分からないが、近くの商店に駆け込み子どもを私に見せた。小さな可愛い赤ちゃんだった。写真撮ってよいかというと嫌だといいいながら、近くの 4、

5人がパッと散った。なあんだと思いながらそこを後にしようとしたら、一人の子どもがついてくる。話しかけるとチューインガムもっているかという。持っていないよと離れると・My name is なんとかと言ってカタコト英語で話しかけてくる。13歳で7年生という。その周囲で私は12歳で6年生、5、6名が俺も、俺もと言う。わんぱく坊主ばかりそろった。奴らは英語は得意ではなく、ウズベク語やロシア語が大半のよう。何を言うているのか分からないと言いながらホテルへ戻った。

「サマルカンド見学」

1日目 市内見物 天体観測所へ 大きなコンパスのようなものが印象的。遺跡発掘体験では皆、棒きれを持って砂場をかき混ぜた。昼食を挟み、バザールへそこでブドウ一房を買う。その後チャイハナへ。



キリスト像に似た像は何かと分からない文字を眺めていたら、買い物帰りの老夫婦が近づいてきて爺さんが何やら説明を始めた。詳しく説明してくれている様子だがちんぷんかんぷんだ。私は一緒に写真撮れませんかというので軽く承諾して一緒に収まった。あとで写真送りますからとペンを渡すと、君が書いてくれんかなと促されたがロシア語はサッパリ聞き取れず、やむなく紙を渡して書いて貰うがこれもサッパリ読み取れず、今読み返しても繋がっている筆記体が全く分からない。言葉が分からないまま別れて18時の夕食の時間になった。

19時～20時50分サマルカンドの物語のバレエ見物：王とお妃の話。王が出掛けて居るとき、お妃が他の男に指輪を贈るという話し・・・??（正確か不詳）

終わって、川崎さんの部屋でツアー一行勢揃い。

10月30日

サマルカンド2日目見物

9時 出発 70km先のパラジスタン市の郷土民族博物館へ パミール山脈をバックに発掘現場にて写真を撮る。

サマルカンド空港からブハラ空港へ、ここは小さな空港。40分で到着するが、途中は広大な砂漠地帯。一面が砂という感じだ。途中ブハラ寄りに大きな貯水池があり用水路が長く直線化していたのが印象的。

ブハラに着いて PM7:30より夕食。それまで一人で少し又外出した。

街には戦争の記念碑があり戦死者の名前が刻んである墓碑の前で一人の老人が名前を読みながら祈っていた。

街は少し埃多し、黄色く散った枯葉の上を歩く。途中闇の中に電灯が輝きスポーツセンターを覗く。中ではサッカーをやっていて子ども連れの男性が座って試合を眺めていた。部屋

ではウェイトリフティングをやっていた。壁には 1980 モスクワオリンピックのポスターが貼ってあった。

少し住宅街に入ると、これまた埃が舞い、モンゴル系の子どもたち、インド系の子ども達が石を投げて遊んでいた、側で犬が寝転んでいるのを、一人の男の子がおもちゃの鉄砲でバンバンと標的にしながら撃っていた。多分狼の真似ごとでもしているのだろう。子どもらはしきりにお互いの名前を呼び合い、何やら遊びをやっている様子。



夕焼けのブハラの風景である。住まいはあまり上等ではない。壁に番号が書いてあり上に名前があり、その殆どが平屋造りであまり大きくない。住宅の中にある広場では、男の子達が集まってソフトボールをやっていた。日本もここもどこも変わらない一日の黄昏時を過ごしていた。ここではモンゴル系の人々が例の四角い帽子をかぶっている。

ハバロフスクに 11:55 (ハバロフスク時間) 着 =タシケント時間 07:55

PM1:00 に食事をして、終えて我が部屋 508 号室でゆっくりしている。

アムール川に船が浮かび、川岸の上に薄く黒い雲がある。私はベッドに横になっている。ラジオはしきりに、笛やギターを鳴らしている。こんな雰囲気、タシケントを出て 9 時間でハバロフスクの到着。そして今一時間くらいただただ横になっている。幸せを感じる。あらゆる鎖を忘れる一瞬だ。ラジオは高鳴る！

帰りのハバロフスクでは保育園を見学、可愛い子供たちの歌を聴いたり、一緒にダンスをしたり、楽しく過ごした。外気温-10 度近いというのに部屋の暖かいこと。
ハバロフスク→モスクワ→サマルカンド→ブハラ→タシケント→(ノボシビルスク)→ハバロフスク。夏から冬への急変のような激しい気温差の旅だった。ブハラは夏でモスクワは冬。なおタシケントは 12 年前の地震で全壊して新しい都市に生まれ変わっていた。Xipoci のロシア語もほんのちょっぴりだけど役に立った。グルジョア人の結婚式も観た、また、月曜からは忙しい日常に戻る。体調不良なり、こりやあんまり長くないな。ロシアの女性は若いときは皆一様にとっても美人。歩き方がさっそうとして気に入った。

11 月 4 日 大阪発 PM1:10 →熊本 2:10

地図を見てあんな大空を行ったり来たりしたなんて余力がまだまだあるような気がしてならない。ハバロフスクでのお別れパーティ、I さんに薦められるまま正直にワイン 1 本あけて気分よくなって、それからへらへら、ロシア人に混ざって 7 人皆でダンスをしたのだった。おかしくて おかしくて、酔っ払った私を C さんがカメラで正面で撮ったみたいだ。その夜が大変。十数回トイレへ通い、朝まで寝付けなかった。うんこの色は真っ黒に。

さてさて帰り着いて 4 日 PM10 時 瀬戸の花嫁など聞いている。淋しいなあ。

この生まれて初めての海外の旅は幻の 1980 モスクワオリンピックの 1 年前か・・・1979 年
我が 25 歳の思い出だ。 遠い昔の思い出だ。よくぞノートの手切れが残っていたなあ。2023
年 4 月 17 日 我が小川の実家の後片付けの際に見つけたノートがあって、どうせ捨てるも
の。44 年前の我が青春の旅の証かな。

あれから色々な事に出会った。青春時代はあっという間の出来事だ。そして人間はお粗末
でまだ戦争なんかやっている。反省もなく繰り返す愚か者だ。